

株主通信 vol.35

RYOWA REPORT

第69期 中間期 業績のご報告

平成29年4月1日～平成29年9月30日

- 1 ごあいさつ／トップインタビュー
- 4 施工実績
- 5 テクノ菱和の技術の紹介
- 7 連結財務情報
- 9 会社概要／株式の状況

空
気
と
水
の
テ
ク
ノ
ロ
ジ
ー

株主のみなさまには、平素より格別なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、テクノ菱和グループは、このたび第69期(平成29年4月1日から平成30年3月31日)の中間決算が終了いたしましたので、ここにご報告申し上げます。

株式会社テクノ菱和
代表取締役社長執行役員

黒田 英彦
Hidehiko Kuroda



経営理念

「空気と水のテクノロジー」を通じて
環境にやさしい生活空間の創造を目指す。

環境エンジニアリングを中核事業とし、
ひろくお客様から「信頼」される企業を目指す。

人材の育成・教育を重視し
働き甲斐のある企業を築き、社会に貢献する。

行動規範三訓

逞しい心身の鍛錬

意志疎通の徹底

技術力の研鑽

Q 上半期の建設業界を取り巻く経営環境は
いかがでしたか？

A 当中間期におけるわが国経済は、国内外の底堅い需要に支えられ良好な収益環境を維持しており、企業の設備投資意欲の高まりと雇用・所得環境の改善により緩やかな回復基調が続いておりますものの、米国トランプ政権の政策運営や北朝鮮情勢の緊迫化などの不安要素があり、先行き不透明感は拭えない状況が続きました。

建設業界におきましては、国内外の景気動向が緩やかな回復基調にあるなか、好調な企業収益を背景に設備投資は増加傾向を維持しており、補正予算の執行に伴い公共投資の増加も寄与していることから、堅調な受注環境が続きました。

Q 上半期の業績はいかがでしたか？

A 当社グループの上半期連結業績は受注高32,115百万円、売上高25,938百万円、営業利益523百万円、経常利益621百万円、中間純利益373百万円となりました。

当中間期の受注状況は、好調な企業収益を背景に設備投資の需要が堅調に推移したことから、当社の得意とする産業設備工事を中心として前年を上回る受注量を確保することができました。

収益につきましては、前連結会計年度から繰り越した手持工事高の減少により売上高が減少し、利益につきましても、売上高の減少に加え一部採算性の低い工事の影響があり、前年と比べ減収減益となりました。

中間期の業績	当中間期 (百万円)	前中間期 (百万円)
受注高	32,115	31,270
売上高	25,938	28,891
営業利益	523	1,918
経常利益	621	1,986
中間純利益	373	1,306

Q 上半期の取り組みについて教えてください。

A 当期は、「創業時の原点に還ろう」というスローガンを掲げ事業活動を推進してまいりました。こ

れはお客様の様々な要望に果敢に挑戦し技術力を積み重ねてきた先達のパイオニア精神を顧みるものです。具体的には、ライフサイクル一貫ソリューションビジネスの推進による重要客先との関係強化、提案営業の推進による新規客先の開拓、海外事業の強化、中央監視システムの拡充などを重点施策として、受注量の確保に努めてまいりました。あわせて、監査等委員会設置会社への移行によるコーポレート・ガバナンスの強化と執行役員制度の導入による経営の意思決定の迅速化を図ることで、企業価値の向上を図ってまいりました。

また、建設業界において労働力不足や長時間労働等の労務問題が顕在化するなか、その対策が喫緊の課題となっており、政府・業界を挙げて労働環境の改善に向けた機運が高まっております。当社においても、経営上の重要な問題として捉えており、本年4月に「働き方改革委員会」を発足し、就労環境の整備や長時間労働の是正に向けた取り組みを行うなど、事業環境の改善に取り組んでまいりました。

Q 下半期の見通しを教えてください。

A 下半期につきましても、国内経済は、企業収益の拡大や在庫調整の進展を背景とした生産の回復と雇用・所得環境の底堅さを支えにした個人消費の持ち直しにより、緩やかながらも引き続き景気回復基調を維持することが見込まれます。

今後も国内景気の動向を反映して、製造業における設備の維持・更新需要は底固く推移することが予想されますが、建設業界におきましては、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けたインフラ整備が本格化するなか、慢性的な人手不足による人件費の高止まりや資機材価格の高騰など徐々にコスト上昇圧力が強まっており、予断を許さない状況が続くことが予想されます。

中期3か年事業計画の最終年度である当期の連結業績見通しにつきましては、期初計画通り受注高59,800百万円、売上高62,000百万円、営業利益2,700百万円、経常利益2,850百万円、当期純利益1,850百万円を見込んでおります。

当期の見通し	当期末予想 (百万円)	前期末実績 (百万円)
受注高	59,800	59,661
売上高	62,000	62,234
営業利益	2,700	4,421
経常利益	2,850	4,508
当期純利益	1,850	3,100

Q 株主のみなさまへのメッセージをお願いします。

A 当社は、産業設備分野における「ライフサイクル一貫ソリューションビジネス」を収益の柱として位置づけております。なかでも医薬関連分野は、高齢化社会の進展に伴い緩やかな市場拡大が見込まれるこ



とから、設備投資の需要も底堅く推移することが予想されるため、今後も当分野での受注拡大と収益確保に注力してまいります。また、海外事業におきましても、東南アジア地域での事業活動を推進し、人材育成と受注拡大を図ることで、安定的な経営基盤の確保に努めてまいります。

なお、当期末の配当金につきましては、1株につき10円とし、年間では前期と同額の1株につき20円とさせていただきます。予定にしております。

当社グループのより一層の発展に向けて全力で取り組んでいく所存でございますので、株主のみなさまにおかれましては、今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

佐藤薬品工業株式会社立体自動倉庫・試験棟



本物件は、医薬品原材料の保管量確保と効率的な仕分けを行うために新設された立体自動倉庫施設と試験施設で構成されます。自動倉庫は医薬品GMPに準拠した施設となっており、多点温度記録計や当社が開発した中央監視システム(TEC BEAMS®)を導入することで倉庫内環境を監視、制御しています。試験施設ではドラフトチャンパーの大量排気に対応するため、外気に温調設備を設けることで試験環境の維持、向上を図っています。



概要	
完成年月	2017年5月
施工地	奈良県橿原市
建物用途	医薬品用倉庫・試験施設
延床面積	3,712.76㎡
物件形態	地上4階
工事範囲	空調・衛生設備工事

独立行政法人国立病院機構岩手病院新病棟



本物件は、既設病棟の老朽化に伴い、約50年ぶりに全面建替された新病棟であり、慢性重症疾患に対する医療・介護・福祉の充実と地域医療の実践に取り組んでいます。空調方式は主に空冷パッケージエアコンを主体とした個別空調を採用しております。建物は東日本大震災の経験から免震構造を採用しております。また衛生設備として、給湯用ヒーターや貯湯槽、消火ポンプ類を設置し、隣接する既存病棟にも供給しております。

概要	
完成年月	2017年7月
施工地	岩手県一関市
建物用途	病院
延床面積	11,576.00㎡
物件形態	地下1階地上6階
工事範囲	空調・衛生設備工事

株式会社日本色材工業研究所つくば工場



当社は、国内外において高まる化粧品生産委託需要に安定的に応えるため、つくば工場における一貫生産体制を目指し工場拡張計画を進めており、本物件は第2期拡張工事として充填・仕上・包装ラインの増設および附帯設備の導入を行いました。今回増設された製造施設ではパッケージ型空調機による個別空調とセントラル空調を併用し、温湿度や清浄度、室圧管理を行っております。

概要	
完成年月	2017年4月
施工地	茨城県つくば市
建物用途	化粧品製造工場
延床面積	2,129.40㎡
物件形態	地上2階
工事範囲	空調・衛生設備工事

福生市防災食育センター



本物件は、地域の総合防災施設として位置づけられ、災害発生時には市内の避難生活者への応急給食の提供、一時滞在場所や備蓄拠点としての役割を担い、平常時は市内小中学校への給食提供や防災教育・環境・食育の拠点として機能しています。空調設備については、調理棟は吸収式冷温水発生機、管理棟はパッケージ型空調機を採用しています。また、調理場内のダクトをシームレス管とすることで埃だまりを無くするなど衛生面に配慮した施工方法を採用しています。

概要	
完成年月	2017年5月
施工地	東京都福生市
建物用途	防災施設・給食センター
延床面積	4,844.84㎡
物件形態	地上2階
工事範囲	空調設備工事



テクノ菱和の技術の紹介

Vol. 13

「環境のトータルエンジニアリング」企業である
私たちテクノ菱和の技術をみなさまにご紹介いたします。

「見える化」技術

当社は、オフィスビルや学校・病院施設などの一般ビル空調設備の設計施工から、医薬品や食品、電子デバイス関連の製造工場におけるクリーンルームの設計施工および運転管理、省エネ技術の提案など、様々な環境制御技術で建築設備のライフサイクル一貫ソリューションビジネスを展開しております。

特に当社の得意とする産業設備関連施設の空調システムにおいては、温湿度・清浄度条件や用途、空調方法の違いにより、各々の施設に応じた高度な環境制御技術が求められます。

<目に見えない空気やエネルギーをどのように把握し、お客様の要望にお応えするか…>

こうした問題に対して当社は「見える化」技術を活用して、お客様の設備運用の最適化を支援しています。

→ エネルギー・設備運用状況の「見える化」

建築設備のライフサイクルのなかで全体の消費エネルギーの約7割を占めるのが設備運用に係るエネルギーとされています。当社は、お客様施設に設置した計測器を通じてデータを収集し、消費エネルギーや設備運用状況を「見える化」するだけでなく、設備の運用支援を行い、効率的な運転管理や省エネ提案を行うサービスを展開しています。

- 【関連技術】
- ・高機能中央監視システム『TECBEAMS®』
 - ・医薬品製造工場向け中央監視システム『TECBEAMS+P』
 - ・クラウド型設備運用サービス『smart SOLAVICE』
 - ・クラウド型BEMS機能『R-Second Sight』

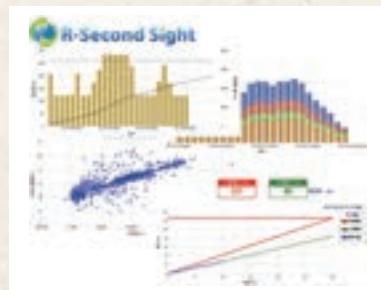


smart SOLAVICE

→ 気流・微粒子の「見える化」

製品の生産環境において、普段目にするのできない空気の流れや製品の品質低下の原因となる微粒子を「見える化」し、製造工程における問題点を抽出・改善することで、製品の品質や歩留まり向上を目指します。

- 【関連技術】
- ・気流・微粒子可視化システム『Casica』
 - ・シミュレーション技術



R-Second Sight



見える化技術 「気流・微粒子可視化システム」を紹介します。

気流・微粒子可視化システム



気流も



微粒子も



視せる!
魅せる!

医薬品製造や食品、電子デバイスなどの生産環境における清浄空間を確保するためには、室内の気流の状況や塵埃の発生源を特定し、改善する必要があります。

「Casica(カシカ)」は生産環境における気流と微粒子を可視化することで、対象エリアにおける問題点を把握することができるシステムです。

◆ システムの特長

気流の可視化

クリーンレーザーを用いることで室内の気流を可視化できます。
室内に供給するクリーンエアが確実に必要な場所に供給されているか?排気が室内に滞っていないか?といった生産環境の問題点を確認できます。



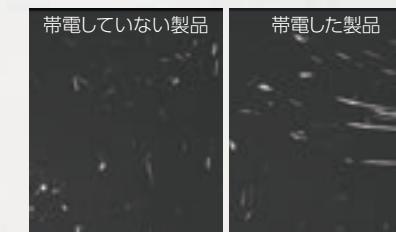
微粒子の可視化

強力なレーザー光を用いてクリーンルームなどの清浄環境における微粒子の発生源を特定することができます。
室内を暗くせずにサブミクロン以上の微粒子を可視化することができます。



微粒子の挙動を検証

可視化した微粒子は、軌跡抽出や超高感度モードなどのリアルタイム画像処理が可能です。
処理した画像から粒子の挙動を検証することができます。



静電気によって帯電した製品に微粒子が吸着する様子

受注高 32,115 百万円 < 前年同期比 2.7%増 >	売上高 25,938 百万円 < 前年同期比 10.2%減 >	経常利益 621 百万円 < 前年同期比 68.7%減 >	中間純利益 373 百万円 < 前年同期比 71.4%減 >
--	---	---	--

受注高構成比

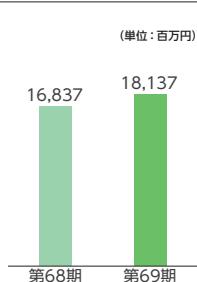
(総受注高に対する割合を示しています。)

産業設備工事

56.5% 18,137百万円

当中間期は、企業収益の拡大や在庫調整の進展を背景に設備投資の需要が底堅く推移したことから、医薬・食品関連施設を中心に前年同期を上回る受注量を確認いたしました。

今後も医薬関連分野を中心とした産業設備工事の受注拡大に注力するとともに、ライフサイクル一貫ソリューションビジネスを実践し、お客様との関係強化に努めてまいります。



電気設備工事

3.2% 1,022百万円

連結子会社の松浦電機システム株式会社が、発電設備、太陽光発電やLED照明などの省エネルギー技術の提案・施工・メンテナンスを実施しております。



冷熱機器販売

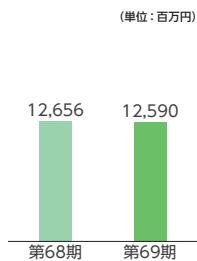
1.1% 363百万円

設備工事に関する空調機器等の販売を行っております。

一般ビル設備工事

39.2% 12,590百万円

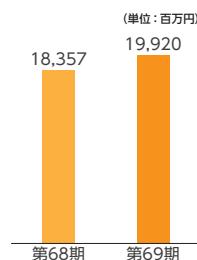
当中間期は、医療施設を中心に受注が堅調に推移し、前年同期と同水準の受注量を確認いたしました。今後も継続的な設備の更新需要を取り込むとともに、学校や病院をはじめとするインフラ需要に対応し受注量の確保に努めてまいります。



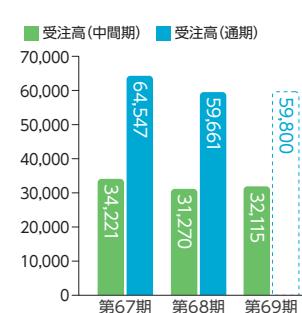
設備改善工事

62.0% 19,920百万円

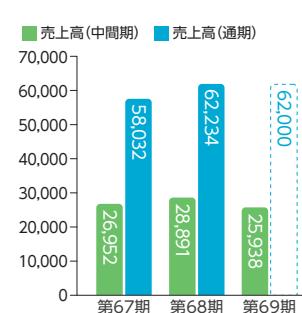
施設のロングライフ化に貢献するメンテナンス工事と経年劣化した設備の機能回復や、より効率的なシステムへの見直しを図るリニューアル工事を中心とした事業分野です。



受注高の推移



売上高の推移



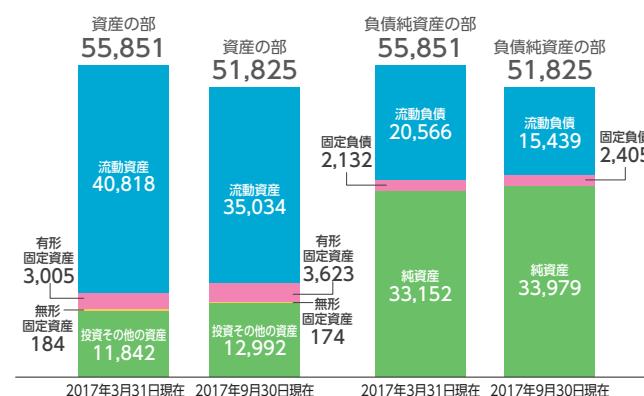
経常利益の推移



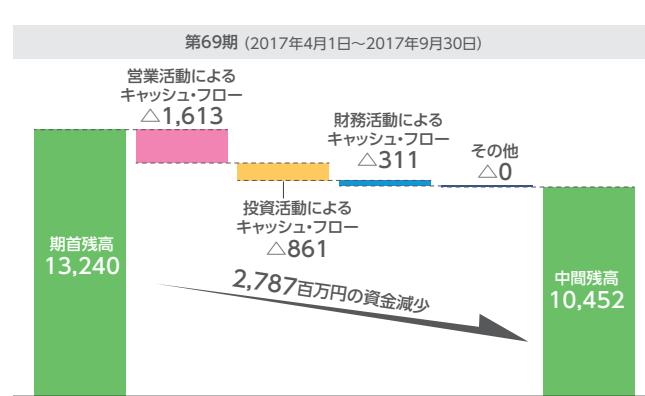
当期純利益の推移



貸借対照表の概要



キャッシュ・フローのポイント



財務のポイント

資産の部 流動資産における現金及び預金の減少26億円、受取手形・完成工事未収入金等の減少21億円、固定資産における投資有価証券の増加9億円を主な要因として、前期末と比較して40億円減少し、51.8億円となりました。	負債の部 流動負債における支払手形・工事未払金等の減少39億円、電子記録債務の減少9億円を主な変動要因として負債合計は、前期末から48億円減少し、17.8億円となりました。	純資産の部 利益剰余金の増加1億円およびその他有価証券評価差額の増加6億円を主な変動要因として、純資産合計は、前期末から8億円増加し33.9億円となり自己資本比率は前期末と比較して、6.3ポイント上昇し、65.6%となりました。	キャッシュ・フロー 売上債権の減少による資金増加29億円、仕入債務の減少による資金減少48億円、有形固定資産の取得による資金減少7億円を主な変動要因として現金及び現金同等物は前期末と比較して27億円減少し、10.4億円となりました。
---	--	--	--

詳しい情報はウェブサイトへ



会社概要 (平成29年9月30日現在)

商号 株式会社テクノ菱和
(英文表記 TECHNO RYOWA LTD.)

設立 昭和24年12月23日

資本金 2,746,800,000円

上場 東京証券取引所市場第二部

従業員 684名 (連結793名)

本社 東京都豊島区南大塚2丁目26番20号

登記上の所在地 東京都港区芝大門2丁目12番8号

事業内容 当社グループは、産業用空調、冷暖房、給排水、衛生、電気設備等の設計・施工管理といった設備工事業ならびにそれらに付帯する業務を行っております。お客様のビジョンの実現に向けた計画提案、設計、施工、設備診断、アフターメンテナンスといったワンストップサービスを通じて、お客様を総合的にサポートしてまいります。

- 産業設備関連事業
- 一般ビル設備関連事業
- 電気設備工事業
- 冷熱機器販売事業
- 太陽光発電事業
- 不動産賃貸事業
- 保険代理事業

主な事業所

技術開発研究所(東京都世田谷区)	名古屋支店(愛知県名古屋市)
東京本店(東京都豊島区)	静岡支店(静岡県静岡市)
千葉支店(千葉県千葉市)	大阪支店(大阪府大阪市)
茨城支店(茨城県土浦市)	中国支店(岡山県倉敷市)
北関東支店(埼玉県さいたま市)	九州支店(福岡県福岡市)
東北支店(宮城県仙台市)	海外事業部(東京都豊島区)
横浜支店(神奈川県横浜市)	

役員 (平成29年9月30日現在)

取締役

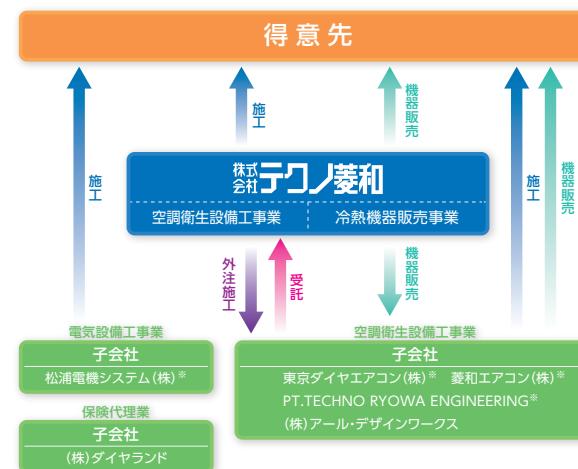
代表取締役	黒田 英彦
取締役	飯田 亮輔
取締役	知見 扶公
取締役	鈴木 孝
取締役	根岸 孝雄
取締役(社外)	楠本 馨
取締役常勤監査等委員	雑賀 純二
取締役監査等委員(社外)	小栗 章雄
取締役監査等委員(社外)	本間 正広

執行役員

社長執行役員	黒田 英彦
専務執行役員	飯田 亮輔
専務執行役員	知見 扶公
常務執行役員	鈴木 孝
常務執行役員	星野 宏一
上席執行役員	松橋 秀明
上席執行役員	根岸 孝雄
上席執行役員	黒田 長憲
上席執行役員	窪 和敏
上席執行役員	加藤 雅也
執行役員	福士 富三
執行役員	大石 勉
執行役員	永崎 公幹
執行役員	鈴木 俊夫
執行役員	袴田 一博
執行役員	齋藤 吉信

企業集団の状況 ※連結子会社

東京ダイアエアコン株式会社*	PT.TECHNO RYOWA ENGINEERING*
所在地 東京都新宿区	所在地 インドネシア共和国
主要な事業の内容 空調衛生設備工事業	主要な事業の内容 空調衛生設備工事業
菱和エアコン株式会社*	株式会社アール・デザインワークス
所在地 愛知県名古屋市	所在地 大阪府大阪市
主要な事業の内容 空調衛生設備工事業	主要な事業の内容 空調衛生設備工事業
松浦電機システム株式会社*	株式会社ダイヤランド
所在地 大阪府守口市	所在地 東京都港区
主要な事業の内容 電気設備工事業	主要な事業の内容 保険代理業



株主優待制度のお知らせ

当社株式を決算期末日に100株以上ご所有の株主様に静岡の新茶をプレゼントいたします。

ご優待内容

ご所有株式数1,000株以上	静岡の新茶2パック贈呈
ご所有株式数100株以上1,000株未満	静岡の新茶1パック贈呈

ご優待品「特選茶」

株式の状況

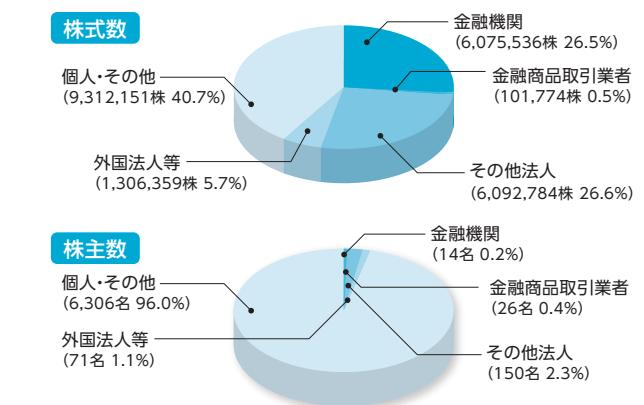
発行済株式の総数 22,888,604株

当中間期末現在の株主総数 6,567名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
テクノ菱和取引先持株会	2,189	9.5
三菱重工サーマルシステムズ株式会社	1,424	6.2
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,131	4.9
株式会社みずほ銀行	1,131	4.9
東京海上日動火災保険株式会社	906	3.9
株式会社名古屋銀行	738	3.2
明治安田生命保険相互会社	734	3.2
株式会社京葉銀行	723	3.1
近重 次郎	672	2.9
小野薬品工業株式会社	652	2.8

株式の分布状況



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年の3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先^(注) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料)
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

単元株式数 100株

公告掲載URL <http://www.techno-ryowa.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

諸手続き
お問い合わせ先 【住所変更、買取請求その他各種お手続きについて】

- 証券会社をご利用の株主様
お取引の証券会社等にお問い合わせ下さい。
- 特別口座に記録された株式をご所有の株主様
特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせ下さい。

【未受領の配当金について】
未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

(注) 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関の事務拠点の移転に伴い、平成29年8月14日付にて上記のとおり変更しております。

特別口座をご使用の株主様へ お早めに株式をお振替え下さい

特別口座に記録されている株式は、証券市場での売買を行うことができません（単元未満株式は除く）。また、特別口座で管理されている株式は相続や贈与時のお手続きが煩雑になってしまいます。

ご所有の株式が特別口座に記録されている場合は、証券会社等に一般口座を開設し、特別口座から株式をお早めにお振替え下さい。詳しいお手続きにつきましては三菱UFJ信託銀行にお問い合わせ下さい。

お手続き	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
お問い合わせ先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 TEL:0120-232-711 (通話料無料)

株式会社 **テクノ菱和**

<http://www.techno-ryowa.co.jp/>

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2丁目26番20号

お問い合わせ TEL: 03-5978-2541



環境に優しい植物油インキ
を使用して印刷しています。

UD
FONT

